

2014年1月27日  
国際協力機構（JICA）  
カンボジア事務所

## =プレスリリース= カンボジアの地方電化を促進 ～ラタナキリ州小水力発電所建設・改修計画起工式～

ラタナキリ州バンルン市にて1月25日（土）、一般無償資金協力事業「ラタナキリ州小水力発電所建設・改修計画」（供与限度額12億600万円）の起工式が執り行われました。

同式典には、イット・プラン鉱業エネルギー省長官、ケオ・ロタナックカンボジア電力公社総裁、樋口義広在カンボジア日本国大使館公使及び井崎宏 JICA カンボジア事務所長、そして600人を超える住民が出席しました。

カンボジアは、国内の電化率が28.6%

（2011年、一般社団法人 海外電力調査会より）とその他アセアン諸国に比べても低く、電化率の向上が急務となっています。特に、都市の電化率（87%、2008年）と地方の電化率（13%、2008年）の差が著しいことから、カンボジア政府は、2011年に地方電化促進戦略計画を定め、2020年までにバッテリー照明を含め村落電化率100%を達成、2030年までにグリッド品質の電気により世帯電化率70%を達成することを目標に掲げています。



写真：鍬入れ式の様子（左からケオ・ロタナックカンボジア電力公社総裁、樋口義広在カンボジア日本国大使館公使、イット・プラン鉱業エネルギー省長官、モム・サルーンラタナキリ州副知事、井崎宏 JICA カンボジア事務所長）（1月25日、ラタナキリ州バンルン市内）

ラタナキリ州はカンボジア北東部に位置し、年率4%以上の人口増加に伴い電力需要の伸びが著しく、必要電力のうち80%をベトナムから輸入しています。しかし、不安定な供給体制により年間140回以上停電するなど、必要な電力量が十分確保できていません。ラタナキリ州は山がちな地形であり、水資源に富むことから小水力発電のポテンシャルは高いとされていますが、現在稼働しているのは1993年から稼働しているオチュム第2発電所のみです。しかし、オチュム第2発電所は経年劣化に伴う設備不良により定格の容量を発電することができないことから、本事業により同発電所にある機器を改修し、本来の定格出力である960kWを発電することを計画しています。また、オチュム第2発電所のあるオチュム第2ダムとオチュム第1ダムの間には約23mの落差があることから、両ダム間の落差を利用してオチュム第1発電所（定格出力265kW）を新たに本事業により建設することとしました。オチュム第1発電所及び第2発電所で発電された電力は、両発電所のあるオチュム地区に加え、近隣のバンルン市、バーカエブ地区、オヤタブ地区にも供給され、約8万5000人の住民に供給される見込みです。本事業は2015年3月末に完工予定であり、ラタナキリ州への電力の安定供給がなされることが期待されます。

# 別添

## 今回実施するプロジェクトの内容（一部紹介）



写真1：オチュム第1ダム。取水塔の周りを土で締め切る工事を開始。



写真2：オチュム第1ダムから、オチュム第1発電所に導水するための基礎工事の様子。



写真3：オチュム第1発電所の基礎工事の様子。完成すれば265kWの発電が可能となる。



写真4：21年前に設置されたオチュム第2発電所の発電機。経年劣化に伴い機材が劣化、本事業によりこれら機器を取り換える予定。